



## コミュニティ力を高める



### ●絆マップの作成支援

地域住民が主体的に地域の防災に関する課題を共有するための取組みのひとつとして、平成21年度から各自治会のオリジナル防災マップ「絆マップ」の作成支援を実施してきました。現在、米原市内71団体で取り組み、定期的な更新作業も行われています。

マップ作りでは、実際にまち歩きをして地域の危険箇所等を確認し、消火栓の位置や要配慮者の家の情報、避難経路等の防災情報と合わせて、話し合いながら地図に落とし込む作業を実施。こういった作成過程を通じて、防災に対する地域の議論が深まっただけでなく、絆でつながる地域づくりを推進しました。



### ●かまどベンチの製作支援

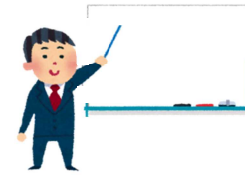
「かまどベンチ」は、普段はベンチとして使用しながら、非常時には炊き出し用の「かまど」として防災にも活用できる設備。

高齢者と子どもが交流しながら製作することで、防災知識や知恵の継承、世代間の気づきなどの効果をねらいとして、市は製作支援を実施してきました。

被災時の設備や防災訓練の場として、かまどベンチが「物」として役立つことはもちろん、その製作活動に様々な主体が関わることで、防災・減災の担い手である「者」の育成にもつながりました。



## 災害について学ぶ



### ●防災講演会の開催

年に1回、広く市民を対象にして、防災講演会を開催。講演会の際には、各地域の実践事例の紹介や、防災資機材の展示なども行い、幅広く防災について学ぶ機会としています。



### ●防災出前講座の開催

自治会や福祉サロン、学校などからの申込に応じて、防災担当職員が地域にお伺いし、出前講座を実施しています。

出前講座では、各地域の災害特性を確認し合うほか、家庭や地域で実践していただけるような防災上のヒントをお伝えするなど、対象者の年齢や団体の特性に応じたプログラムで対応しています。

### ●防災番組の放送

米原市の広報媒体の特徴として、週に1回更新される行政放送番組「伊吹山テレビ」があります。伊吹山テレビでは、各地域における防災の取組みをトピックスとして紹介しているほか、放射線の基礎知識など、通常の紙面広報では伝わりにくい内容や、東日本大震災について福島県相馬市を取材した内容を特集番組として放送するなど、その媒体を活かした防災広報を行っています。

また、広島のと砂災害が発生した際には、地域の危険箇所を改めて知っていただくため、防災マップの確認方法などについて、緊急告知の放送を行いました。



## 実践的に備える



### ●防災道場の開催

自主防災組織で取り組んでいただきたい防災訓練メニュー、そのポイントやノウハウを地域の防災リーダーに伝授する場として、平成26年度に「防災道場」を米原消防署と共催で実施。

防災道場では、模擬訓練を行って、訓練の運営方法を体験する機会を設けるなど、各地域の防災活動の活性化を後押ししました。平成27年度もステップアップした内容で実施する予定です。

【メニュー】

- ・リーダーの心構え指南
- ・防災訓練ノウハウ伝授
- ・実践！模擬訓練
- ・防災問答



### ●防災資機材の整備支援

ハンドマイクや救護・救出用品など、各自治会が災害に備えて購入する消防・防災資機材について補助を行い、自主防災組織の活性化を推進します。

特に、平成27年度から3年間については、最低限必要な資機材のうち比較的高額なものを対象に、補助率の引上げ(1/2→2/3)を行い、資機材の早期整備の推進および充実を図ります。

また、これらの資機材の安全で有効な使用方法等についての研修会を開催したり、各自治会の防災訓練で資機材の活用を推進したりするなど、事業効果を高める取組を実施する予定です。